

令和7年度 第2回宝塚ボランタリープラザ zukavo 運営委員会 要旨

日時:令和7年8月29日(金)13:00~15:00

場所:ぷらざこむ1 24会議室

参加者: 桦井氏、藤原氏、徳好氏、塩川氏、大西氏、足立氏、山平氏、後藤氏、平尾氏、池本氏

事務局(宮田、大関、藤原)

内容

1. 開会

2. 新任運営委員について

・委嘱状交付

社会福祉協議会役員交代に伴い運営委員を新たに委嘱

　　桦井氏、大西氏

・運営委員紹介

3. 報告事項

(1) 事業進捗状況

◇事務局より報告

・ぷらざこむ1の運営について

・活動助成金の見直しについて

・実施済み事業について

　　福祉学習プログラム講師交流会、福祉学習プログラム体験会、光洋との協働イベント

◇委員より質問・意見

・福祉学習プログラム体験会に先生を集めるためにどのようなことをしているか

　⇒福祉教育担当教員の会合に出席させていただき、情報をお伝えさせていただいている

・コロナ以降、依頼がなくなったが、点字版3クラス分持っている(宝塚点字友の会)

(2) ボランタリー活動助成申請状況と第1回ワーキングの報告

【活動助成の見直し】

・ワーキングチーム(5名)で令和8年度夏ごろまでに協議する

・配分委員会、運営委員会とも連携しながら令和9年度から新しい仕組みへの変更を目指す

【現状と課題】

・スタートアップ助成は年度途中でも申請可能で、グループ立ち上げに有用である

・ボランティア活動を増やしていくうえで、厚みを持たせていくのもいいのではないか

・基本活動助成金額の下限が低く、申請の煩雑さと見合ったものになっていない

・活性費助成は通常活動とは異なる活動に対する助成であるが、毎年申請することにより、対象活動が通常活動となっている面がある

【これからの助成の基準について】

- ・活動の基本は、①人材育成②事業内容③財政④持続的な運営能力である。
- これを助成基準に使用できないか
- ・組織分析のテンプレート(コミュニティキャピタル診断)が参考になるのではないか
- ・活動の精度を高めるためには助成金を獲得するためのプレゼンテーションもひとつ的方法である

4. 協議事項

(1) 『ぶらざこむ』の運営について

【現時点の決定事項】

- ・今年度(9月～3月)はこれまでの利用ルールと大きな変更なく運営していく
- ・来年度から本格運営を始められるように、利用対象者の拡大、部屋の利用方法などについて、広く市民のアイデア、ご意見を聞く場を設け、ルール作りを進めていく予定

【『ぶらざこむ』の利用の審査機関について】

- ・これまでには『ぶらざこむ』登録審査会が利用団体の審査を行ってきた
- ・これまで利用していた団体は引き続き利用していただく
- ・これから利用登録される方には、利用審査委員会(仮称)で審議してもらってはどうか。
- ・利用審査委員は、運営委員から1名、事務局(zukavo)から1名、社会福祉協議会から1名、合計3名でどうか

【審査基準について】

- ・普通の貸館ではないので、大きな理念が必要である。キヤッチが3つほどあればよい
- ・審査の価値観(社会的価値観)と異なる価値観を持ったグループ(子どもを愛せない親の集まり、女装が好きな男性の集まりなど)についてどのように判断するか

⇒客観的な基準が必要である。事務局が案を作成し、運営委員会で諮りたい

【利用対象の拡大について】

- ・市民活動の拠点として、数多くの団体に有効に活用してもらいたい
- ・現在、法人は利用できることになっているが使いたいNPO法人もあるのではないか

⇒社協としては利用対象を広げていきたい。法人格の有無より、何をするのかを重要視したい。これまで利用している団体と話し合いの場を持ちながら進めていきたい

5. その他

- ・来年夏に部活動が完全に地域移行する予定地域で中学生を受け入れられる体制を作りたい。現在中学生10名ほどの意見を聞いている。

以上